



盛り込んだ地域医療構想の実現に向けて、取り組む方針を明らかにした。公明党の渡会克明議員(豊橋市)の質問に答えた。

病床数は患者一人一人のニーズに適した治療を受けられるよう、「高度急性期」「急性期」「回復期」「慢性期」などに分ける。国の試算によると、愛知県では回復期の病床が不足する見込みで、その対策についても構想の中で示す。

■地域医療構想の策定
大村知事は高齢化社会に対応するため、県内全域で質の高い医療を提供できるよう地域別に機能、この必要病床数を示すことなどを

構想は医師会や病院協会、市町村などの意見を聴取して策定する予定。区域ごとに「地域医療構想調整ワーキンググループ」を設置し、地元の医療機関からも意見を集める。